

第5回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2021年9月10日（金） 午前9時00分から午前10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、小嶋光明、小田啓二、川島恒憲、中村美和、浜田信行、福士政広、笠井 篤、辻本 忠、橋本 周、高橋賢臣、秋吉優史、阪間 稔
4. 紹介資料
 - 資料1
放射線影響の観点からの課題
 - 資料2
「職場の安全サイト」労働安全取組に関する話題提供
5. 議事
 - (1) 放射線影響の観点からの課題（意見発表）

資料1に基づき、浜田委員より放射線影響の観点から事故被災者の放射線影響について概説があった。

 - 放射線影響の観点から、被ばく状況及び被ばく部位により健康影響が変わってくることから、被災者の被ばく線量評価が課題であることが改めて確認された。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 線量再構築が重要であるが、今回の事故について、1) 事故発災事業所が実施する場合及び被災者受け入れ先の病院で実施する場合がある、及び2) 低エネルギーX線での線量評価が課題になるがバイオアッセイでも利用が可能な技術の進歩がある点が指摘された。
 - ✓ 今回の事故では不均等被ばく状況が疑われる状況であるが、被ばく状況については公開情報がない。
 - ✓ 事故の被災者は作業中に個人線量計を装着していたと想定されるが、事故時の被ばく線量についての公開がない。
 - (2) 「職場の安全サイト」労働安全取組（話題提供）

資料2に基づき、中村委員より労働安全取組に関する意見発表があった。

 - 労働災害統計に基づき死傷災害発生状況（令和2年度で合計 131,156件）及び労働災害事例の紹介があった。電離放射線による疾病発災事例は10年に1、2件に留まっているとの報告があった。
 - 労働災害発生防止のための施策（リスクアセスメントの実施及びその結果に基づいた措置、安全管理体制の整備、作業の標準化とその徹底、新規教育と継続的な再教育、作業場の巡視によるチェック）について、今回の事故発災元ではどのような施策がとられていたのかも検証のポイントになるのではないか。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 放射線事故を含めた労働災害発生を防止する労働安全上の枠組みがどのように機能しているか、本WGのミッション（4）に関連して、このような公的なリスクアセスや教育等の事業者支援の枠組みにも着目し、さらによいものにするための具体的な提案などもできればよい。
 - ✓ 放射線事故について監督省庁横断の事故事例情報の一元化がなされるとよい。また、被ばく事故につながらなかったヒヤリハット事例の集約・紹介

が、放射線作業従事者や関係する学生に対して周知されることが、事故の予防の観点から有益である。

- ✓ 労働災害の統計は、労災として報告された事例のみが集計されるため、事故発災に至らなかった事例、放射線管理区域の外で発生した被ばく事例は集計されていないと考えられる。
- ✓ 平時よりの労働者の被ばく線量一元化が労働者の放射線安全確保や労働者を守るための疫学調査を行ったり、被ばくによる健康影響を特定するためにも重要である。

(3) その他

- WGメンバーに配布していた第4回WGの議事要旨を確認し了承された。
- 第6回WGは9月17日(金)9時～10時の開催を予定している。
- 第6回は、福士委員、秋吉委員より関連情報の提供をお願いする。

以上